

幼児教育・保育長期研修最終報告書

原 籍 校 名	阿武町立阿武小学校	研 修 生 氏 名	吉岡 茉穂
研 修 派 遣 園	阿武町立みどり保育園		
研 修 テ ー マ	架け橋期における指導・支援・連携の在り方について		
1 研修の概要			
(1) 研修の目的			
○ 幼児期の教育及び保育や子どもの育ちと学びを理解することで、小学校においてそれらを踏まえた支援や指導の工夫を行う。			
○ 阿武町教育委員会、阿武町立みどり保育園、阿武町内の小学校等と連携し、架け橋期のカリキュラムを作成する。			
(2) 研修内容			
○ 幼児期の育ちや学びに応じた支援や指導の方法を理解する。			
○ 幼児教育と小学校教育をつなぐ交流活動や連携方法を考察・提案・実施する。			
○ 架け橋期のカリキュラムを作成する。			
(3) 研修方法			
○ 保育園や幼稚園の補助教員として子どもと関わることを通して、幼児期の育ちや学びを理解し、支援や指導の方法について観察し、記録する。			
○ 保育園や幼稚園での体験や記録を基に、遊びを中心とした園での学びを小学校の教育にどう生かすかを考える。			
○ 幼児教育・保育と小学校教育の関係者が連携して、架け橋期のカリキュラムの作成・実施・検証を行う。			
(4) 研修計画			
[派遣園での研修]			
通 年 保育園での生活や活動の様子を知り、幼児期の育ちや学びに応じた支援や指導の在り方を学ぶ。			
1 学期 派遣園等と協同して架け橋期のカリキュラム（案）を作成する。			
2 学期 保育園と小学校をつなぐ交流活動や連携方法を考察・提案・実施する。 架け橋期のカリキュラム作成に向けた協議・検討を行う。			
3 学期 架け橋期のカリキュラムの最終検討、連携に関する日程調整、周知を行う。			
[派遣園以外での研修]			
○ 県が指定する研修（8日）			
○ 指定園での研修（2週間程度） 本願寺萩学園 認定こども園 萩幼稚園			
○ 町教委の計画による研修（年間40日程度）			
・ 原籍校での報告、研修等			
・ 町教委での報告、研修等			
・ 研修視察（広島大学附属三原学校園）			
・ 他の小学校、教育施設等での報告、研修等 福賀小学校、阿武中学校、柳井小学校、山口大学教育学部山口地区附属学校園 川中小学校、母子センター			
・ オンライン研修 特別な配慮を必要とする子どもの保育研修会、幼保小架け橋プログラム事業の成果報告会、保幼小連携研修会 C（小さき花幼稚園・徳山小学校）			

2 研修の成果

(1) 幼児期の教育及び保育や子どもの育ちと学びを踏まえた支援や指導の工夫

幼児教育	小学校教育
経験カリキュラム 一人ひとりの生活や体験からの学び、 自発的な活動を重視	教科カリキュラム 学問の体系を重視
5領域を総合的に展開 (言葉・表現・環境・健康・人間関係)	各教科等の学習内容を系統的に学ぶ
方向目標 「味わう」「感じる」「興味をもつ」等 の方向付け	到達目標 「～できる」「～分かる」といった 目標への到達度を重視
学びの芽生えの時期 学ぶということを意識しているわけではないが、楽しいことや好きなことに集中 することを通じて、さまざまなことを学 んでいく。	自覚的な学びの時期 学ぶことへの意識をもち、集中する時 間とそうでない時間の区別が付き、与 えられた課題を受け止め計画的に学習 を進める。
みどり保育園の子ども達に見られた姿 ※ 全ての子どもに同じように見られたわけではない。	
砂場遊び・・・砂と水で作ったチョコレ ートを友達と等分する際に、量が比べら れるように同じ容器を選ぶ。 なわとび・・・友達に縄の端をもっても らい、自分と友達の縄の長さを比べる。	〈算数科で身に付ける資質・能力〉 - 長さ、広さ、かさなどの量を具体的な 操作によって直接比べたり、あるもの の大きさを単位としてそのいくつ分で 表現したりする。 - 身の回りにあるものの特徴に着目し、 比べ方を見いだすことができる。
〈支援や指導の工夫の例〉 長さを比較した経験を出し合いながら、比べ方を考えられるようにする。長さを比べ る対象や方法を自ら選択したり、試行錯誤したりできるような学習環境を設定する。	
読み聞かせ・・・言葉の響きやリズムの 面白さを感じ、言葉に出して読むことを 楽しむ。 虫取り・・・見つけた虫を図鑑で調べた り、知っている文字を声に出して読んだ りする。 劇・・・友達同士で話の流れを確認しな がら劇を進めたり、身体を動かしながら 言葉の意味に気付いたりする。	〈国語科で身に付ける資質・能力〉 - 語のまとまりや言葉の響きなどに気を 付けて音読する。 - 時間的な順序や事柄の順序などを考え ながら、内容の大体を捉える。 - 場面の様子や登場人物など、内容の大 体を捉える。
〈支援や指導の工夫の例〉 身体を動かしながら実感を伴って言葉を理解できるようにする。劇遊びという活動を取り入 れることで登場人物の具体的な行動や会話、場面の様子等に自然と着目できるようにする。	

幼児教育と小学校教育には様々な違いがあるが、上記のように子どもの学びは連続している
 ので、小学校の教員は幼児教育・保育を理解し、幼児期の学びを踏まえた指導の工夫を行
 っていく必要がある。また、保育士の声かけや関わり方等を参考にしたり、幼児期の多様な

経験を生かしたりしながら授業を展開することで、子どもの学びがつながったり、深まったりする。育ちや学びが繋がっているところを出し合ったり、保育園や小学校での取組や日々大切にしていることを紹介し合ったりする機会を大切にしていきたいと思った。

(2) つながりの充実に向けて

① 架け橋期のカリキュラム作成

架け橋期のカリキュラムとは、幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育・保育と小学校の関係者が連携して作成するものである。研修を通して架け橋期のカリキュラムを作成することには様々なよさがあると分かった。1点目は、教育活動において継続的、効果的にPDCAサイクルを回すことができるということである。上手くいったことや改善した方がいいことなどを、カリキュラムを基に振り返っていくことでPDCAサイクルを回して改善を図っていくことができる。2点目は、担当が変わっても一貫性のある教育活動を行うことができるということである。同じ視点で話し合い、「めざす子どもの姿」や「育みたい力」等を共有することで、誰が担当になっても子どもの育ちや学びをつなげていくことができる。3点目は、先生同士の連携のツールになるということである。カリキュラムに活動や行事、先生の関わり等を記載しておくことで、子どもたちの生活や先生が大切にしていることがイメージしやすくなる。カリキュラムを活用しながら情報交換や意見交換等を行うことで互いの教育活動に生かすことができる。

架け橋期のカリキュラムができあがるまで

〈阿武町で行った保小の連携に関する会議〉

- 第1回保育園小学校連携協議会（5月13日）
 - ① 講義：「幼保小の架け橋期プログラムについて」
 - ② 方向性の共有
- 第2回保育園小学校連携協議会（8月8日）
 - ① 講義：「架け橋期のカリキュラムについて」
 - ② 架け橋期のカリキュラム作成に向けた協議・検討
 - ・ めざす子ども
 - ・ そのような子どもを育てていく上で大切にしたいプロセス
 - ・ 生かすことができそうな活動や教科
- 第3回保育園小学校連携協議会（12月26日）
 - ① 架け橋期のカリキュラムの最終検討
 - ② 連携に関する日程調整
 - ③ 架け橋期のカリキュラムの周知



〈架け橋期のカリキュラムが完成するまでに行ったこと〉

- 乳幼児の育ちと学びセンター指導主事からの講義・指導助言
 - ① 保育園小学校連携協議会（第1回～第3回）での講義・指導助言
 - ② 架け橋期のカリキュラムについての助言 等
- 保育園、小学校それぞれで話し合い
「めざす子どもの姿」「育みたい力」「活動とプロセス」
「先生が大切にすること」 など
- 小中学校の先生にアンケート
「育みたい力」（小・中）
「先生が大切にすること」（小）
- 第2回報告会での架け橋期のカリキュラムに関する協議



「どんな子どもをめざすか」というビジョンが保育園と小学校でそろっていることがとても大切だと思った。お互いの保育・教育のビジョンを理解することにより、大きなつな

がりや連続性を念頭に置きながら話し合うことができた。また、阿武町の特徴を生かしたカリキュラムを作成するために、子どもに関わる大人が集まって話し合った。

保育園と小学校のちがいが めざす子どもの姿 育みたい心や力	
何を学ぶか 内容	
どのように学ぶか 保育園と小学校の先生が大切にすること	阿武町教育 阿武町教育の特色を生かしたカリキュラム（交流活動や先生同士の連携等について）

阿武町架け橋期のカリキュラム（交流活動や先生同士の連携等について）

- ・ 交流活動や行事
- ・ 保育園のねらい
- ・ 小学校のねらい
- ・ 先生同士の連携

② 子ども同士の交流

今年度、年長児と児童の交流を何度か行っただが、子どもの実態やねらいを共有したことによって、子どもに対する先生の声かけや関わり方が変わったように感じた。また、交流の時期や場所、内容、先生の関わり等は適切だったかを振り返ったことで、今後の教育活動にどのように生かしていくか、次回の交流にどうつなげるか、を共に考える事ができた。保育園と小学校のそれぞれがねらいをもち、協働して交流の計画を立て、実践することで、子どもの学びに広がりや深まりが生まれると実感した。保育園と小学校の先生が気軽に連絡をとることのできる関係にしていきたいと思った。

3 今後の取組

(1) 本県教育の充実に資するため、地域や他校などに対しての具体的な還元方策

- ・ 架け橋期のカリキュラムについての情報提供
- ・ 保小担当者会議の実施
- ・ 保小連携について小中学校教員への情報提供（阿武町教職員全体研修）
- ・ 研修会等での事例発表
- ・ 授業公開

(2) 自らの教育活動の中での具体的な活用方策

- ・ 架け橋期のカリキュラムの実施・評価・改善
- ・ 対話を通した相互理解（保育園と小学校）
- ・ 内容や時間割の工夫

（例）園の活動を取り入れる・・・折り紙、お絵かき、歌、読み聞かせ、英語活動等

子どもの実態に合わせる・・・「教室にある物の数を数えてみよう」（算数・生活）

「見つけた物を紹介しよう」（国語・生活）

- ・ 「経験や学びをつなぐ」「自己選択・自己決定」「振り返り」を大切にした授業作り
- ・ 幼児期の学びを踏まえた指導の工夫

4 その他

この1年間、様々な立場の方との出会いがあり、小学校では知ることができなかったことをたくさん学ぶことができた。特に保育園の先生や子ども達と共に生活をしたり、子どもに関わる大人が集まって子どもの育ちと学びについて協議したりする時間はとても貴重だった。この研修で出会った全ての方に感謝し、今年度学んだ事を今後の実践に生かしていきたい。